



「点から線へ」 学習効果の定着化のポイント



教育/研修の効果を最大限にするために

先日開催いたしました「インバスケット展示会2019」にて、基調講演として鳥原より『持続性のあるインバスケット教育 ～点から線への転換～』をお話しました。その中で教育/研修後に、**継続的に学習を続ける**ためのポイントが3つありました。



①明確な目標設定

→なぜその研修を受ける必要があるのか？を受講者が理解できているかという点です。例えば研修名を「判断力向上研修」や「タイムマネジメント研修」とするなど、こういった目的の研修が行われるかを明確化することがポイントです。



②モチベーションの維持

→1回目の研修と併せて能力の数値化（採点）を行います。すると改善点が見えるため、モチベーションが上がったところで2回目の研修を行うことで、学習意欲を維持/向上させることができます。



③周囲からの評価

→例えば「判断力向上研修」を受けた人には、プロジェクトリーダー等の判断業務を依頼するなど、学んだことを発揮する場を提供し、成果を承認することで研修内容の定着化を図ることができます。

いかがでしたか？研修の後、続けて学習する**仕組み**を構築することが鍵を握ります。

2020年、公開セミナーはこう変わる！

2020年1月からの公開セミナーのイベントを公開しました。
来年、新たに登場するのが、**回答の書き方教室**です。
お客様のお声からできた講座なのですが、下記でお悩みの方に
おすすめの講座です。



- ☑ インバスケットの回答の書き方がわからない
- ☑ 思っていることがうまく伝えられない
- ☑ 上手な指示の出し方を身に着けたい
- ☑ 上司が使うべきキーワードが知りたい



また「インバケット入門」講座と組み合わせることで、演習の時間配分や回答のポイントなど、はじめての方でも、インバケットの**基礎を習得**することができます。

(はじめてのインバケットコース)

詳細はこちら



サポーターズインタビュー

大竹 杜萌子様 西大宮ゼミナール 主宰

Q.まずは、自己紹介をお願いします。

さいたま市西区にある学習塾の西大宮ゼミナールの主宰(塾長)です。40年以上続く老舗学習塾の二代目です。

Q.インバケットとの出会いはどういったことでしたか？

鳥原さんの著書「今から君が社長をしなさい」からです。個人事業主なので上司がおらず、仕事の仕方に悩んでいた時、本屋さんでこの本を手にとったのがきっかけでした。

Q.インバケットの魅力はどんなことですか？

インバケットで気づきを得て、次にまたインバケットに挑戦すると、前回にはなかった次の課題が出てくることです。

Q.インバケット研究所にどんなことを期待されますか？

問題解決を派手に行う人が評価されがちですが、問題が起る前に予測して手を打てる人も評価されるような何かを作してほしいです。

あと、小学生や中高生のインバケットを作ってほしいです。まっ先に使わせていただきます。



ロゴに込めた想い
～「▽」のなぞ～

はじめてお会いする方と名刺交換後によくご質問いただくのがこちら。

「なぜAがひっくり返ってるんですか...？」

違うのです。これはAの逆さまではなく「全称記号」といい、数理論理学において「全ての」という意味で使われます。

インバケットはビジネスパーソンのためだけでなく、**全ての人に使っていただき、ステップアップの糧に**していただきたい、という想いを込めてロゴとして使用しています。

SNSも更新中！
フォロー&いいね
宜しくお願いします！



INBAS
インバケット研究所



@inbasket_Lab



@inbasket

発行元：株式会社インバケット研究所
カスタマーサポートグループ
メール：houjin@inbasket.co.jp



データ版はこちらから